

新造車両「3000系」導入

来年秋の営団南北線・都営三田線との相互直通運転に備え東横線で営業運転開始

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：清水 仁）では、東横線複々線化事業により、平成12年秋から目蒲線目黒駅で、営団南北線および都営三田線との相互直通運転の実施に対応する新造車両を8両1編成導入し、本年4月中旬より東横線での営業運転を開始します。

今回導入する「3000系車両」の特徴は、複々線区間において既存の車両とホーム上で識別出来るように、側面の赤に濃紺を加えたラインを入れています。また、営団南北線乗り入れに対応するため、ワンマン運転に対応できる機器を装備しているほか、正面部分は運転士の視界を確保するためガラスを側面までまわり込ませており、若干丸みを帯びた車体になっています。

環境面においての特徴は、沿線住民に対する騒音や振動などの環境に配慮した車両となっています。具体的には、

- ①モーターや主制御装置、補助電源装置に低騒音機器を導入したことで車外騒音の低減を図っています。
- ②機器を大容量化し、集約化したことでモーターや主制御装置、補助電源装置など1編成における台数を削減し軽量化を図っています。
- ③パンタグラフも軽量で、積雪にも強いシングルアーム式を採用しています。

これらのことにより既存車両に比べ、車両重量が約10%軽量化され、地盤振動を低減すると同時に消費電力量も約10%減少します。ほかにも冷房装置の冷媒として、オゾン層に配慮した物質を使用しています。

サービス面においての特徴は、

- ①空調装置では、外気温、湿度の高低、混雑率など、車内の状況に応じて機能するセンサーを導入したことで、よりきめ細かい制御が可能になります。
- ②座席シートでは、横幅を一人当たり450mm確保しており、従来より10mmほど広くしています。シートの形状はバケットシート型を採用しており、定員の着席を促進します。
- ③次駅の案内表示をする車内表示器を設置しています。
- ④従来よりも高さを低くし利用し易い網棚にしています。

これらの改善によりお客様への利便性の向上を図っています。

このほか、8両編成のうち2両に設けている車椅子専用スペースの側面にはヒーターを設置し、車椅子でご利用される方にも配慮した車両となっています。

3000系車両の概要は次の通りです。

3000系車両の概要

形 式	3000系
最大寸法	20000mm（先頭車20300mm）（長さ）× 2820mm（幅） × 4065mm（高さ）
定 員	先頭車141人・中間車151人
制 御 装 置	I G B T - V V V F インバータ方式
補助電源装置	I G B T インバータ方式

以 上